

企業における時間管理

2009年 1月28日



財団法人 社会経済生産性本部
コンサルティング部

なぜ、残業になるのか

①環境変化による

- 依頼される業務の種類や量に、処理能力が対応できなくなる
- 業務範囲と責任が不明確になる

②部分最適な改善

- 業務全体を考えていない

なぜ、企業は残業削減をするのか

- 残業が多いと

- 人材が集まらない、他の組織に転出・退社など
- コスト増により、利益圧迫

どう対応しているのか

● 管理

- マネージャーの意識改革／早く帰る雰囲気づくり
- 残業の申請制

● 制度

- ノー残業デー
- 一斉消灯
- フレックスタイム制などの導入
- 全員に、各自の残業実態を見えるようにする

● 業務改善

- 計画の精度アップ → 標準時間の設定
- 処理のブラックボックス化の排除 → 標準化
- 業務全体量の削減 → IT化など
- 時期による繁閑の波を平らにする → 平準化
- 業務の多い時期などに対応 → パート・アルバイト・派遣など他者の活用

どう時間を把握しているのか

- 残業を削減するには、
まず時間の把握がなければ、対応できない
- 企業では、どう時間を把握しているのか
 - 営業
 - 月や週の活動計画を作り、
客先での滞在時間について、日報に記入し、毎日提出する
 - SE・PG
 - 複数のプロジェクトなどを担当することもあり、
日々の業務内容について、作業報告書に記入し、毎日提出する

まとめ

- 企業では、
業務を行なうだけが、仕事でなく、
時間をどの位かけたかなどを報告することまで
を、仕事としている。